

第1章 札幌市の観光への取り組み

1 札幌新まちづくり計画

「札幌新まちづくり計画」は、平成16年度から18年度までを計画期間とした札幌市のまちづくりのプランです。この計画は、市民と市が共有する理念や指針を基に、取り組みを進めていくため、まちづくりの理念や指針を表す「ビジョン編」と、ビジョン編に基づいて市が重点的に実施する事業を計画化する「重点事業編」の2編構成となっています。

この計画では、市民にとってのより身近な将来像を「市民生活の姿」として描くとともに、都市の構成員が協働してまちづくりを進めるうえで、各主体に期待される主な役割についても示しています。また、行政が担う役割を踏まえて、札幌市が計画期間内に重点的に取り組む事柄を「施策の基本方針」として掲げ、その具体的な内容を「施策」として記述しています。

この計画においては、「協働による観光振興とコンベンション事業の推進」が17の重点戦略課題の一つに設定されていますが、その具体的な内容は以下のとおりです。

重点戦略課題 協働による観光振興とコンベンション事業の推進

《市民生活の姿》

四季が織りなすゆたかな魅力に恵まれた観光都市としての優位性を一層高め、まちが人々を引きつけ、迎える市民のおもてなしでもう一度訪ねたくなるまちになっています。さらに、国内外の人々の交流を演出する多くのコンベンション^注の開催で、活気があり新たな市民文化をはぐくむまちになっています。

《現状と課題》

■ 観光客の入り込み状況

札幌を訪れる観光客は、昭和61年度から平成3年度まで急速な伸びをみせた後、バブル経済崩壊の影響もありいったんは低下しました。その後は持ち直したものの、近年は、1,300万人程度で推移しています。

また、海外からの来客は、延べ宿泊者数で見ると、平成5年度は90,205人で、その10年後の平成14年度は232,072人と2.6倍に増加しましたが、都道府県別の海外来客の訪問率をみると、平成14年度で9.1%（7位）となっています。

観光やビジネスなどで、より多くの方々が札幌を訪れることは、札幌の基幹産業ともいえるすそ野の広い集客交流産業^注に活況を生み、それが広い分野に波及し、雇用の機会が増えるなど地域の経済振興にとって有力な手段になります。さらに、市民と訪れた方との交流が盛んになることで、新たな文化の創出などさまざまな効果が期待できます。そこで、現状の来客数を飛躍的に高めていくことが、札幌にとって大きな課題となっています。

札幌への観光客の入り込み時期をみると、夏場や年末年始、雪まつり時期などに集中し、この期間のホテルの客室稼働率は高いが、これらの時期以外は、限られた来札者を奪い合う厳しい価格競争が展開され、利益を生み出しにくい状況にあります。

このため、年間を通じて安定した集客につなげていくことが、本市の集客交流産業全体にとって大きな課題となっています。

注) コンベンション：大会、会議、展示会、見本市、イベントなどの非日常的な人の集まりを核として、人や物、知識、情報、技術を呼び込むしくみ。

注) 集客交流産業：来客への直接的なサービス提供（主なものは、飲食、買い物、レジャー、コンベンション、交通、宿泊）に関連する産業や来客への情報提供（主なものは、観光企画、情報メディア、印刷、通訳）に関連する産業を指す。

■ 集客交流資源の活用・新たな発掘

札幌には、藻岩山などのゆたかな自然や新鮮な食材、定山溪温泉、四季折々の祭りやイベントに加え、札幌コンサートホール（キタラ）、札幌ドーム、モエレ沼公園など数多くの集客交流資源があります。今後は、来客数を増加させるために、それらにふさわしい付加価値づくりや観光ツアーコースの開発などにより、芸術・文化、スポーツなどのハード・ソフトの資産を積極的に活用し、市民と来客が共に楽しめる新たな魅力を発掘する必要があります。

■ ホスピタリティ^注の充実

札幌への来客数を増やしていくためには、まず市民一人ひとりの温かいおもてなしの心と交流に寄せる熱意をはぐくむとともに、各企業がそれぞれの立場で、また、いろいろな機会を通じて、外国人をはじめとする旅行者を温かく迎える環境を整えていく必要があります。

国内外の観光先進地と比べ、旅行者に対する歓迎メッセージや、外国語標記が少ないこと、旅行者のニーズに対応した観光情報の提供などが必ずしも十分でないことから、市民、関係業界、行政が一体となってホスピタリティの一層の充実を図っていく必要があります。

注) ホスピタリティ：来客に対して、受け入れ側の人々が気持ちよく接し、快適で強い印象と深い満足感を与え、再び訪れたいようにさせる心のもったおもてなし

■ コンベンション誘致・支援の強化

集客効果の高いコンベンション誘致をめぐる都市間競争が激しくなる中で、平成15年6月に、札幌コンベンションセンターがオープンしました。今後より一層、経済効果の高い大規模コンベンション、都市の知名度アップにつながる国際コンベンション、参加者と市民の交流が図られる社会的効果の高いコンベンションの誘致を推進する必要があります。

● 札幌での主なコンベンション（実績）

年	開催月日	名 称	参加国・人数
H12	11.6— 11.11	第55回国際青年会議所世界会議	102 地域 8,000 人（海外 1,500 人）
H14	6.1—6.7	2002 ワールドカップサッカー大会	—
	10.13— 10.18	第6回DPI（障害者インターナショナル）世界会議	110 カ国 3,113 人（海外 844 人）
H15	6.30—7.11	国際測地学・地球物理学連合総会（IUGG）	77 カ国 4,645 人（海外 2,158 人）
	10.31—11.7	アジア野球選手権（兼アテネ五輪予選）	7 カ国・地域 250 人

■ 道内各市町村との連携

札幌は、北海道の交通網の要衝となっていることから、観光やコンベンションの拠点機能の一層の強化を図る必要があります。また、道内の魅力的な観光地との連携や協力を一層進め、誘致宣伝活動の共同化や情報のネットワーク化、周遊ルートの開発を進めることにより、北海道観光の魅力を高めるとともに、札幌での滞在期間の延長を促す必要があります。

《各主体の主な役割》

市民 ・NPO等	<ul style="list-style-type: none"> ・来客を温かく迎えるおもてなしの実践 ・地域の魅力づくりへの参画 ・ボランティアの育成と自立化の支援 など
企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・観光商品の開発、誘致宣伝活動 ・観光客などへのより良いサービスの提供 ・観光都市を支える人材の育成 など
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外向けの誘致宣伝活動 ・観光関係者の資質の向上 ・観光資源の保護・活用の促進 など
大学等	<ul style="list-style-type: none"> ・観光（情報）に関する研究者などの人材育成 ・集客交流に関する研究情報の発信 ・企業、行政との共同調査・研究 など
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、NPO、企業、関係団体などとの連携促進や支援 ・国・北海道・他市町村との連携促進による施策展開 など

《施策の基本方針》

世界の集客交流都市さっぽろの実現に向けて、札幌の基幹産業の一つである観光やコンベンションの一層の振興に努めていきます。

道内各市町村との連携や市民・企業との協働により、まち全体で誘致・PRやホスピタリティあふれるおもてなしを進めるとともに、芸術や地域文化などのハード・ソフトの資産を集客交流資源として積極的に活用しながら、札幌独自の魅力づくり、情報発信を進め、将来目標として来客2,000万人を目指します。

《施策》

■ 集客交流都市としての魅力の発信

年間を通じて繰り広げられる祭りやイベントなどさまざまなエンターテインメントが楽しめる都市と鮮やかな四季の変化やゆたかで美しい自然とを融合させた札幌独自の魅力づくりを進め、集客交流資源として積極的に活用していきます。

このような札幌独自の魅力を生活文化も含めて国内外に情報発信するシティPR^注を積極的に展開します。

また、映画などのロケーション誘致を推進する「フィルムコミッション^注事業」を展開するなど多角的に本市のイメージアップを図ります。

注) シティPR：都市の知名度やイメージの向上を図るための各種PR。

注) フィルムコミッション：映画、テレビドラマ、CM撮影などにおけるロケーションをスムーズに進めるためのさまざまな情報やサービスを提供する支援組織で、自治体の一部署や民間団体または両者の協力期間で組織する非営利組織。

事業名	事業内容	事業費	備考
芸術・文化を活用したまちの魅力発信事業	札幌の芸術・文化を新たな観光資源として活用し、イサム・ノグチ、モエレ沼公園などをテーマにした誘致プロモーション（宣伝活動）を実験的に展開します。	16 百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光業界向けセミナー開催 ● 広告宣伝媒体の作成 など
さっぽろフィルムコミッション事業	札幌の持つ自然や街並み、歴史や市民文化などの都市の魅力を国内外に発信するとともに、札幌における映像文化の振興を図るため、映画、テレビなどのロケーションの誘致や支援を進めます。	73 百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民エキストラ^注育成 ● 海外向けロケ誘致活動 など
映像を活用したまちの魅力発信事業	映像ロケーション都市としての札幌の魅力を発信し、また、札幌における映像文化の振興を図るため、在札若手映像作家によるロケーション地（撮影場所）のショートストーリー（短編映画）制作、紹介を行います。	5 百万円	
「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担	姉妹都市ミュンヘン市の年中行事であるクリスマス市を、ホワイトイルミネーションの実施に合わせて大通公園で開催し、ミュンヘンの文化を身近に感じる冬の集客交流イベントとして推進します。	36 百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 実行委員会に対する負担金
都心にぎわいづくり事業	大道芸を中心とした秋のイベント「だい・どん・でん！」や、既存イベントにパフォーマンス ^注 を付加したり新たなイベントを行う「都心にぎわいづくり事業」に対して、事業費の補助を行います。	45 百万円	
集客交流・シティPRキャンペーン（ビジュアルプロジェクト）	市民、企業と協働して、戦略的にPR冊子を配布したり、市民自らがポストカードにより来札を呼びかけるなど、札幌のさまざまな魅力を視覚に訴え、来札意欲を高める事業を展開します。	90 百万円	

国内観光プロモーション	首都圏、関西圏、地方中核都市などのマスコミ、観光事業関係者、一般市民などを対象として、イメージ発信、宣伝、旅行商品開発支援などを行います。	34 百万円	
首都圏シティPR事業	観光客、コンベンション等の誘致、都市のイメージを向上させるため、各種媒体の効果的な利用や集客イベントなどを通じた首都圏でのシティPRを推進します。	79 百万円	
ノルディックスキー世界選手権札幌大会を活用したシティPRおよびおもてなし事業	2007年ノルディックスキー世界選手権札幌大会およびプレ大会の開催に合わせて、札幌の魅力を積極的にPRするとともに、臨時観光案内所を設置するなどおもてなし事業を行います。	3 百万円	
国際観光誘致事業	中国、韓国をはじめとする東アジアを中心にオセアニアを加えた地域を対象として、イメージ発信、宣伝、旅行商品開発支援などを行います。	37 百万円	
東アジア都市間交流推進事業	東アジア地域との都市間交流を推進するため、中国、韓国から映像文化などの分野のキーパーソン(中心人物など)を招いて両国の文化を紹介するイベントを行うとともに、両国の都市で札幌の都市PRを行います。	10 百万円	

注) エキストラ：映画、演劇などで、群集シーンなどに、臨時に雇われる出演者。

注) パフォーマンス：街頭などで行う演技、演劇、演奏などの表現。

■ ホスピタリティ向上の推進

このまちが好きだからこそ温かく迎えたい。そんな心温まる「おもてなし」の気持ちを、札幌の新たな集客交流資源として活用します。そのために、さまざまな機会をとらえ、まちぐるみで観光案内機能や外国語標記の充実、市民、企業へのPRや研修の実施など、ホスピタリティの向上への取り組みを推進します。

事業名	事業内容	事業費	備考
集客交流・シティPRキャンペーン（おもてなしプロジェクト）	市民、企業と協働して、市民のおもてなし意識を高める事業や来訪者に歓迎の気持ちを表す事業など、まち全体で来訪者を温かく迎える事業を展開します。	46百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● おもてなし広告宣伝 ● ウェルカムフラッグ（歓迎のための旗）掲出 ● 観光ボランティア研修 など
ホスピタリティ育成支援事業	観光ボランティアの一層の質の向上を図っていくため、観光業界を対象としたホスピタリティ研修などに対して事業費の補助を行います。	6百万円	

■ コンベンション誘致・支援の推進

札幌コンベンションセンターを中心にホテルなど他のコンベンション施設との連携を強化し、札幌ならではの利便性とサービスの向上、さらにはアフターコンベンション^注の充実に努めます。また、行政や民間を問わずオール札幌としての機動的な誘致活動やさまざまな支援体制を整備し、経済効果の高い大規模なコンベンションや国際コンベンション、社会的効果の高いコンベンション誘致を推進します。

注）アフターコンベンション コンベンションの後の観光旅行や視察・体験実習など

事業名	事業内容	事業費	備考
集客交流・シティPRキャンペーン（コンベンションプロジェクト）	市民、企業と協働して、市長による直接の誘致活動など、国内外から会議やイベントを積極的に誘致する事業を展開します。	50百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● インセンティブツアー^注誘致支援 ● テクニカルツアー^注支援 ● 海外現地広告媒体買取広告掲載など

注）インセンティブツアー 企業や団体が、内部の活性化や長期的な観点からの販売戦略として、社員や関係者の販売意欲の向上のために招待する団体旅行。

注）テクニカルツアー 工場、店舗などのビジネスの現場や関連する博物館等の施設の視察や関係者による説明・紹介などを含む旅行。

■ 住んで快適、訪ねて楽しいまちづくりの推進

集客交流資源の発掘・活用を図るため、都心の整備や美しい都市景観の形成、藻岩山、定山溪温泉などのゆたかな自然環境や市内各所に残る歴史的資産の保全・活用など地域の魅力づくりを目的とした主体的なまちづくり活動に対し、さまざまな側面からの支援を実施します。

また、情報の共有化や相互連携などを図りながら、住んで快適、訪ねて楽しいまちづくりを推進していきます。

事業名	事業内容	事業費	備考
藻岩山観光魅力アップ構想推進	重要な観光資源である藻岩山の魅力向上に向けて、市	12百万円	

	民議論を行いながら基本構想の策定を行い、市、事業者の適切な役割分担のもと、事業計画の策定などを行います。		
定山溪温泉活性化補助	定山溪地区の観光活性化に向けた自主的なまちづくり活動や、来客誘致のためのPR、受入体制づくりなどのソフト事業に対して事業費の補助を行います。	9 百万円	
国際化推進プラン推進事業	外国人も暮らしやすい環境づくりを進めるため、外国人市民の生活に必要な情報提供を充実するとともに、外国人も参加する市民会議により国際化のまちづくりについて検討します。	12 百万円	

■ 道内各市町村と連携した魅力の発掘・アピール

札幌は、北海道の交通網の拠点となっていることから、今後は、他の道内観光地域との連携や協力を一層進め、情報のネットワーク化など先導的な役割を担っていきます。また、札幌や北海道がもつさまざまな独自の魅力を国内外に強力にアピールし、来札意欲を高めるとともに、札幌での滞在期間の延長につながる体験型・滞在型観光の振興に取り組みます。

事業名	事業内容	事業費	備考
札幌ビジターズセンター事業	国内外から札幌を訪れる来客に対し、道内観光情報の発信などを行うおもてなしの中核拠点、「さっぽろビジターズセンター」に対する支援を行います。	—	
フードランド北海道開催費補助	道産食材の消費拡大、観光客誘致の促進、関連産業の活性化を目的に、地産地消をテーマとしたさまざまなイベントを実施する「フードランド北海道」事業に対し、事業費の補助を行います。	30 百万円	
丘珠空港整備と空港周辺のまちづくり事業	丘珠空港の道内航空網の拠点空港としての機能を保持するため、整備費の一部を負担するとともに、空港緑地の整備など丘珠空港周辺のまちづくり構想に基づく事業を実施し、空港と調和したまちづくりを進めます。	3,477 百万円	<ul style="list-style-type: none"> ● 丘珠空港整備事業負担金 ● 空港緑地整備事業 南東地区(継続) 北西北東地区 (新規)

《成果指標》

	(現状値)		(目標値)
● 年間来客数	1, 325 万人	(H14) ⇒	1, 500 万人 (H18)
			(将来目標は 2, 000 万人)
● 来客の満足度	84.5%	(H14) ⇒	90.0% (H18)
● ボランティア体験参加者数 (延べ人数)	3, 609 人	(H14) ⇒	10, 000 人 (H18)
● コンベンション誘致件数	608 件	(H15) ⇒	1, 000 件 (H18)

2 平成18年度観光文化局観光部の機構・職員数

局長	部長	課長	係長	係員
観光文化局長	観光部長	観光企画課長	庶務係長	3名
			計画担当係長	1名
			観光資源担当係長	1名
		シティPR担当課長	シティPR担当係長	2名
			シティPR担当係長	2名
			受入推進担当係長	2名
		事業調整担当課長	事業係長	4名
			事業調整担当係長	
		定山溪地区担当課長	定山溪地区担当係長	
		課長職（財札幌国際プラザ派遣）		
1名	1名	5名	9名	15名
合計職員数 31名				

3 平成18年度観光部の事業概要

○来札観光客入り込み等の調査分析及び情報提供【計画担当】

札幌市への来札観光客の入り込み状況や宿泊施設の利用状況などを、札幌市の交通機関や宿泊施設に調査を依頼し、その回答を取りまとめて、本書「札幌の観光」やインターネットによって情報提供を行っています。

札幌の観光行政（観光統計データ）

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/statistics/statistics.html>

○集客交流促進に関する企画、調査、研究【計画担当】

札幌の観光行政（計画・調査レポート）

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/program/program.html>

平成18年度は以下の調査を行っています。

来札客の満足度調査

来札客の満足度を視点に、観光都市としての札幌の受け入れ体制の現状と課題を把握するとともに、今後の集客交流促進施策の検討のために、来札客に対するアンケート調査を行っています。

○札幌旅行商品造成支援会議の開催【計画担当】

首都圏の旅行代理店の旅行商品企画担当者と札幌の観光関係事業者により構成される会議です。札幌圏の観光関係事業者が、札幌圏の観光の新たな素材を、旅行商品企画担当者に紹介し、意見交換を進めることによって、札幌圏の新しい魅力を組み込んだ、首都圏から札幌圏への旅行商品の造成を目指しています。

○定山溪観光客来客誘致関連補助【計画担当】

定山溪地域では、観光協会、事業者、地域住民等により、「定山溪まちづくり委員会」を設置し地域の活性化について検討を行い、平成15年度にはビジョン、平成16年度にはアクションプランを策定しました。

本年度は、このアクションプランに基づき、「山野草 湯の里 定山溪」のコンセプトの下、温泉街の活性化を目指す地域の取り組みに支援を行います。

○藻岩山魅力アップ構想推進事業【観光資源担当】

藻岩山は眺望、夜景のスポットとして札幌を代表する集客交流資源です。しかしながら、当初の整備から相当期間を経過したことなどから藻岩山の持つ魅力が十分発揮されていない状況にあります。そこで、平成16年度は、有識者、公募市民で構成される懇談会や市民フォーラム等を行い藻岩山の魅力アップについて検討を行い、17年3月に懇談会の提言が報告書としてまとめられました。

本年度は、懇談会の提言に基づき、「5月31日は藻岩山の日」など藻岩山の魅力を高めるソフト事業を推進していくとともに、提言の具体化を図るため、ソフト・ハード面でさらなる検討を行います。

○コンベンションの誘致・支援施策の調査・企画【シティPR担当】

- ・大規模・国際的なコンベンション（例：日本医学会総会、その他政府系国際会議など）の誘致に向けた関係者（道 経済団体 企業等）との意見交換や調整を図るなど、戦略的な誘致に向けた取り組みを行っています。

- ・コンベンション誘致促進助成金制度の整備・運用や、観光施設割引クーポン付ガイドブックの提供、割引地下鉄1日乗車券「Aカード」の販売等を通じて、参加者のアフターコンベンションを促すなどコンベンション推進施策を実施しています。
- ・戦略的なコンベンション誘致を行うため、コンベンションビューロー、コンベンションセンター、東京事務所との情報共有や連携を図っています。
- ・国レベルの誘致推進機関である独立行政法人国際観光振興機構（JNTO）や日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）との事業連携を図っています。

○財団法人札幌国際プラザコンベンションビューローとの連絡調整【シティPR担当】

コンベンションビューローへの補助金を交付するとともに、コンベンション誘致に係る事業実施において、市長招聘状の発行、キーパーソン招聘時の表敬対応などの調整を行っています。

※「コンベンションビューロー」は、コンベンション誘致を誘致するため、誘致段階（誘致プレゼンテーション資料の提供、招聘状の送付など）、開催段階（コンベンション運営の手伝い、ボランティアの派遣）等の事業を主な活動として行う非営利の推進機関です。

○「札幌コンベンションセンター」の運営管理【シティPR担当】

指定管理者制度の導入に伴い、平成18年4月1日から「さっぽろ施設経営有限責任事業組合」が指定管理者として、札幌コンベンションセンターの運営管理を行っています。

※「指定管理者制度」とは、多様化する住民ニーズに、より効果的かつ効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の削減等を図ることを目的としています。これにより、これまで、地方公共団体の出資法人等、公共的な団体しか公の施設の管理を行うことができませんでしたが、民間事業者も公の施設の管理を行うことができるようになりました。

○「札幌流通総合会館（アクセスサッポロ）」を運営管理する財団法人札幌産業流通振興協会との連絡調整【シティPR担当】

札幌流通総合会館（アクセスサッポロ）建設費充当金に対する貸付に関する業務などを行っています。

※財団法人札幌産業流通振興協会は、工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び施設の管理運営を主な業務とする財団です。

○札幌国際見本市委員会との連絡調整【シティPR担当】

平成16年度から、見本市委員会事務局を財団法人札幌産業流通振興協会に移管しました。

○「さっぽろフィルムコミッション」との連絡調整【シティPR担当】

さっぽろフィルムコミッションへ補助金を交付するとともに、ロケ実施時における道路、公園、公共施設使用における許可にかかる連絡調整を行っています。（平成17年度ロケーション誘致・支援件数48件）

○芸術・文化を活用した街の魅力創造・発信事業【シティPR担当】

本市が持つ芸術・文化、いわゆるアートを街の魅力としてPRし、集客につなげていくために、観光資源としてのアートを活用した事業について、事業者に対する支援を行います。

とくに、昨年度グランドオープンしたモエレ沼公園について、公園の魅力を高めPRする事業として、モエレ沼公園グランドオープン1周年事業を支援するほか、南区にある札幌芸術の森での集客に向けたアートイベントの支援を行っています。

○国内マーケットに対する観光誘致宣伝【シティPR担当】

札幌への観光客の入り込みのうち、約44%は道外からの来客であり、消費行動などの経済効果も大きい道外からの観光客誘致に重点的に取り組んでいます。特に、約3,000万人の人口を抱え、札幌への来客数の割合の多い首都圏にむけたPRを中心に、有望なマーケットに対して、誘致宣伝を行います。

(1) ターゲット別国内観光プロモーション事業

首都圏、関西圏及び中部圏において、札幌の観光の魅力を強くアピールし、観光客の誘致促進に結びつけるため、旅行会社及びマスメディア向けにPRを行うとともに、双方向での意見交換を行う「Round-Table about Sapporo Tourism」を開催し、新たな魅力やイメージの発信を行います。

(2) 全国観光と物産展における観光PR

札幌市が主催または後援する全国の百貨店で開催される「北海道の観光と物産展」会場の中で、ポスター掲出、パンフレット配布などを行い、観光PRを展開します。

○海外マーケットに対する観光誘致宣伝【シティPR担当】

近年、海外からわが国への来客者数は、増加する傾向にあります。現在、政府では「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を展開し、海外からの来客を倍増させる取り組みを進めており、今後も急速に増加していく可能性を秘めています。

本市では、台湾や香港、韓国、中国など東アジアからの来客が特に多くなっていますが、最近では、シンガポールからの来客や、冬季にはスキーを主目的とするオーストラリアからの来客も増加する傾向にあります。本市では、こうした海外からの観光客をさらに誘致するために、各種のPR事業を展開しています。

(1) 中国観光PRミッションの派遣

官民一体となったPRのためのミッションを中国に派遣し、現地エージェントやマスコミ向けにセミナーや懇談会を行い、PR展開を図っています。

平成17年12月に、上海市と杭州市において実施しました。

(2) 中国キーパーソン招聘事業

札幌の魅力を中国の方々に広く紹介し、観光客誘致を目指すため、中国から、影響力の強いキーパーソンやマスコミ及び旅行企業関係者などを招聘し、取材や商談の支援を行います。

平成18年2月に、杭州市のマスコミと旅行企業関係者15名を招聘する予定です。

(3) シンガポール観光プロモーションの実施

近年、急速に札幌への来客が増えているシンガポールに対して、札幌市長を団長とする官民合同のプロモーション団により、現地旅行会社向けのセミナーや懇談会などの観光プロモーションを行います。

(4) 国際旅行見本市への出展

東アジア地域で開催されている旅行見本市に出展し、札幌の魅力をPRするとともに、旅行商品の企画を促進するよう現地旅行関係企業との連携を深めます。

【平成18年度出展(予定)】 KOTFA(韓国国際観光展) 韓国ソウル市
東アジア国際観光博覧会 中国大連市

○PRツールの制作、配布・貸出【シティPR担当】

札幌の観光の魅力を視覚的にアピールしていくために、広報宣伝物を制作し、配布または貸出を行っています。

(1) ビデオ・DVD

本市では、現在、2種類のプロモーションビデオ（DVD）を制作しており、プロモーションの機会などに配布しているほか、国内外観光拠点（国際観光振興機構海外事務所、東京事務所、北海道観光連盟）に常備し、誘致用に活用するとともに、観光情報提供窓口である「カッコウの窓口」において、貸出を行っています。

タイトル	言語	メディア	制作年度
AirSapporoN43°	日本語	DVD	初版：平成12年度 改訂版：平成15年度
歓迎交響曲	日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語	DVD、ビデオ	初版：平成13年度 改訂版：平成14年度 再改訂版：平成15年度 再々改訂版：平成17年度

(2) 写真ライブラリー

企業等が札幌の観光ガイドブックやパンフレット制作を行うにあたって、必要となる市内の観光スポット等の写真を保有しており、観光部ホームページ「札幌の観光行政」(<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/index.html>)で無料ダウンロードサービスを行うほか、「カッコウの窓口」において、貸出を行っています。

○観光案内所【受入推進担当】

来札幌に各種観光情報等を提供するため、市内に観光案内所を設置しています。

常設の案内所の他、観光シーズンに合わせた期間設置の案内所があります。

また、外国人来札幌に対しての観光情報提供箇所としての「i案内所」（国際観光振興機構の指定による）があります。

【観光案内所一覧】

名称	所在地	定休日	営業時間	電話番号
カッコウの窓口 (i指定)	中央区北1西2 市役所2階	土日祝、年末年始	8:45～ 17:15	011-211-3341
さっぽろ観光案内所 ビジターズインフォ (i指定)	中央区北5西3 ステラ・プレイス センター1階	年中無休	9:00～ 20:00	011-209-5020 ※平成19年2月1日にJR札幌駅構内にオープンする仮称)北海道さっぽろ「食と観光」情報館内に移転予定。
大通公園観光案内所	中央区大通西3丁目	10月中旬～ 4月下旬(春～ 秋季営業)	10:00～ 17:00 (4～5月、 9～10月) 9:00～ 18:00(6 ～8月)	
定山溪観光案内所	南区定山溪温泉 東3丁目	年末年始	9:00～ 17:00	011-598-2012
札幌国際プラザ (i指定)	中央区北1西3 札幌MNビル3 階	年末年始	9:00～ 17:30	011-211-3678

○観光ボランティア【受入推進担当】

市民による観光ボランティアが、大通公園観光案内所（4月29日～10月31日）や、さっぽろ観光案内所、雪まつり会場の案内所で、パンフレットの配布や、観光スポットの紹介、写真撮影などの観光案内を行っています。地元住民ならではの意見が聞けるということで観光客からも好評を得ています。

現在の登録数は239名（男74名 女165名）、平均年齢は58.2歳であり、活動は交代制となっています。

○ホームページ【受入推進担当】

札幌市の観光情報サイトとして「ようこそさっぽろ」を公開しています。

このサイトの運営は、市民・企業・大学（研究機関）・行政が集まり、運営・編集方針を考える委員会方式をとっており、交通機関等の基本情報のほか、イベントなど季節限定の情報を紹介し、毎月更新しています。日本語のほか、英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語版があります。

また着地旅行者向けには、携帯電話から気軽に情報収集ができる「さっぽろフットナビ！」を公開しています。

ようこそさっぽろ <http://www.welcome.city.sapporo.jp>

さっぽろフットナビ！ <http://www.welcome.city.sapporo.jp/fnv/index.html>



（QRコード）

○観光案内板【受入推進担当】

本市では、魅力ある観光都市の形成の一環として、札幌を訪れる人々のための観光案内板を184基を設置しています。

日本語のほか、英語・中国語（簡体字）・ハングルの4カ国語標記とし、外国人の来客にも対応しており、ユニバーサルデザインやピクトグラム（絵文字標記）の採用により利便性に配慮しています。

17年度については、既存案内板のうち、修繕の必要なものを中心に情報更新を行うほか、中国語（繁体字）の追記を順次行っています。

○観光ガイドブック【受入推進担当】

来札客の利便性を図るため、市内の地図や観光名所などを紹介した観光ガイドブック「さっぽろ観光ガイド」を発行。日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、ロシア語・ハングルの6カ国分を制作しています。

○観光貸切バス待機場【受入推進担当】

観光バスで来た観光客が街なかを見学している間、バスが路上駐車しなくて済むように、観光バス専用の待機場があり、北海道バス協会が運営しています。

〔場所〕

中央区北1条西9丁目 〔平成17年度利用台数 13,271台〕

○おもてなしグランプリ【受入推進担当】

来札客を温かく迎えることができるよう、市民のおもてなし意識を高めるため、「おもてなしグランプリ」を平成17年度から実施しています。

18年度は、市民おすすめの記念写真撮影スポットを募集し、入賞作品をまとめた冊子を観光客に配布する予定です。

○ホテルフロント・コンシェルジュ研修【受入推進担当】

来札客と最も身近に接するホテル関係者を対象に、観光施設の視察研修を実施。18年度は、14ホテルから41人の参加がありました。

○各種まつりの企画実施【事業係】

・さっぽろライラックまつり

ライラックの開花時期に大通公園で開催。昭和34年に第1回が開かれ平成18年で48回を迎えました。

・さっぽろ夏まつり

昭和29年に夏の観光名物の新規開拓を目指し誕生。平成18年で53回を迎えました。イベントの中心となっているのがビアガーデンと盆踊りで、都市公園で4大ビールメーカーが一同にビアガーデンを開催するのは全国的にも珍しいものです。

・さっぽろ菊まつり

昭和38年に菊作り愛好者が増える中、小規模な同好会活動が一本化され、全市的なスケールのイベントとして誕生。平成18年で44回を迎えます。さっぽろ地下街のオーロラタウンとポールタウン、地下鉄大通駅コンコースを会場とし、毎年数百点の菊が出展されています。

・さっぽろ雪まつり

昭和25年に始まったこのまつりは、札幌を代表する世界的なイベントで、平成19年で58回を迎えます。

総数300基を超える雪氷像が7日間にわたり市民や観光客を楽しませます。

○各種まつりの連絡調整【事業係】

・YOSAKOIソーラン祭り

平成4年に始まったこの祭りも平成18年で15回を迎え、約200万人の来場者が訪れる札幌の初夏を彩る一大イベントに成長しました。

・さっぽろホワイトイルミネーション

昭和56年に秋の観光シーズンとさっぽろ雪まつりをつなぐイベントとして誕生。平成18年で24回を迎えます。

会場は大通公園と駅前通りで、総数37万個もの電球が飾られ北の街の夜を幻想的に彩ります。

・ミュンヘンクリスマス市

平成14年ミュンヘン市との姉妹提携30周年を記念し開催されました。会場は大通西2丁目で、ミュンヘン市に因んだ物販が行われ、札幌とミュンヘンの国際的な交流の場として市民に親しまれています。

○札幌国際ユースホステルの管理運営【庶務係】

低額な料金で、安全・快適な宿泊を提供する施設として札幌国際ユースホステルを設置しています。

都心から2 km 圏内、地下鉄東豊線学園前駅に隣接しており、観光の拠点として便利な都市型ユースホステルです。

また、付近には道立総合体育センター「きたえる」があり、スポーツ団体等の合宿にも適しています。

[札幌国際ユースホステル]

所在地	豊平区豊平6条6丁目5番35号
電話番号	(011) 825-3120
開設年月	平成12年4月
構造／延床面積	鉄筋コンクリート造 地下1階付4階建／1、967.64㎡
定員／利用期間	120人／通年
管理運営	(財)北海道ユースホステル協会(指定管理者)
宿泊料金等	宿泊3,800円(中学生以下3,300円、4歳未満無料)(冷暖房、シーツ料、税込) 食事(朝食630円)
敷地面積	918.93㎡
(URL)	http://www.youthhostel.or.jp/kokusai/

4 トピックス

さっぽろ雪まつりに新たに「さとらんど会場」

長年、親しまれてきた真駒内会場に替わり、今回から新たに「サッポロさとらんど」を第2会場として実施しました。

さとらんど会場は、大通会場の大雪像を観る楽しみとは異なり、「北海道ならではの大自然の冬を楽しむ、雪とふれあうことのできる会場」そして「北海道の食を味わうことのできる会場」と、冬の北海道を凝縮した会場となりました。

当会場は、「食」「交流」「遊び」「体験」をコンセプトに開設。雪まつり食堂や屋台村で、おいしい「食」の提供や、雪の大迷路やチューブすべり台、氷のすべり台といった雪や氷で制作したアトラクションで遊びを堪能。雪だるまづくりや熱気球、スノーラフトなどの体験コーナー、市民自らが準備から運営まで携わった企画コーナーなどで、観光客の皆様も含めおおいに楽しみました。また、今回はじめて高校生の雪像制作によるスノーオブジェコンテストを実施いたしました。

雪まつり期間中の来場者は、予想を上回る175,000人に及び、多くの市民、観光客に楽しんでいただきました。



札幌の新たな顔～「スイーツ王国さっぽろ」 スイーツの似合う街・さっぽろ

今、札幌では、スイーツが盛り上がりを見せています。札幌は気候が冷涼で、洋菓子の本場であるヨーロッパに似ており、一年中おいしくスイーツが食べられる街です。

また、北の大地は質の高い鮮度抜群の素材にあふれております。ケーキの材料となるミルク・バターなどの乳製品、卵に小麦粉、果物などの生産地がすぐ近くにあります。

しかも、パティシエ（洋菓子を作る職人）たちは、まだ若い洋菓子文化の中でのびのびと自由な発想でスイーツをつくり出します。

このようにスイーツの似合う街・さっぽろにおいて、平成17年11月に、スイーツを札幌の新たな都市ブランドにしようと、官民一体による「スイーツ王国さっぽろ推進協議会」が設立されました。

同協議会では、プロのパティシエを対象としたコンペティションを行い、さっぽろスイーツ2006としてプリンスホテル・佐藤パティシエの「さっぽろ・いちごタルト」がグランプリとなりました。レシピを公開し、29社62店舗でそれぞれの「さっぽろ・いちごタルト」が誕生しました。平成18年6月には「さっぽろ・いちごタルトスタンプラリー」が開催され、賞品としてケーキ券が贈られました。

コンペティションは毎年行われ、さっぽろスイーツ2007が平成19年1月に発表予定です。これからも、市民や観光客にスイーツの新しい文化と楽しみ方を提供し、全国・世界へ「さっぽろスイーツ」を発信していきます。



J R札幌駅に北海道と一体化した観光案内所オープン

平成19年2月1日、J R札幌駅西コンコースに、北海道の最大の魅力、「観光」と「食」を前面に打ち出した、「観光案内」及び「食の魅力の発信」の拠点、北海道さっぽろ「食と観光」情報館がオープンします。

館内には、北海道と札幌市が一体となった「北海道さっぽろ観光案内所」を設け、札幌市内のみならず道内全域の観光情報を発信し、案内します。また、英語、中国語、ハングルにも対応したり、J R北海道と連携して外国人専用乗車券の販売を行ったりするなど、北海道の玄関口にふさわしい総合的なワンストップサービスを実現します。

そのほか、北海道観光の重要な要素である「食の魅力」を、道産食品の展示、販売を行う「北海道どさんこプラザ札幌店」や道産食材を使った「軽食コーナー」で楽しむことができます。

第1回 日中韓観光大臣会合 in 北海道

平成18年7月1日～3日、日本・中国・韓国の観光大臣が一堂に会し、三国間及び三国外との観光交流拡大の今後の方策等について話し合う、第1回日中韓観光大臣会合が、釧路市、旭川市及び札幌市の3都市で開催されました。

会合では、観光交流拡大に向けて三国が連携を強化していくことが確認され、具体的な方策などを盛り込んだ「北海道宣言」が採択されました。宣言の中では、日中韓域内の観光交流を、2005年の1,200万人から、2010年には1,700万人以上とする目標も設定されています。

また、この会合では、観光大臣や政府関係者だけでなく、延べ3,000人以上の民間交流団や地域住民も参加し、さまざまな交流を通じて相互理解を深めました。札幌でも、歓迎行事のほか、「北海道観光ビジネス・フォーラム」が開催され、各国の観光プレゼンテーションや大商談会など、旅行商品の造成に役立つビジネス交流が行われました。

今回の日中韓観光大臣会合が成功裏に終了したことにより、北海道・札幌の認知度は大きく高まり、国際観光のさらなる発展が期待されます。

